

# PFF Award 2023

[コンペティション部門]

## PFFアワード2023

「自主映画」。それは、自由とクリエイティビティ、そして、とてつもない情熱の塊です。熱く、静かに輝きを放つその塊が、本年557本集いました。入選作品は22本。会場では「観客賞」が決まります。投票できるのは、あなた。未来への1票を投じてください。

### 〈PFFアワード2023 入選作品決定方法〉

[PFFアワード2023]は、2022年3月23日以降に完成した作品を対象に、2023年2月1日～3月23日の期間で公募しました。そうして集まった557本の作品を、PFFディレクターを中心に、映画監督、映画興行者はじめ、全国の映画関係者からなる16名のセレクトション・メンバーで拝見しました。

[1次審査]は、全応募作品を、1作品につき最低3名以上で、途中で止めることなく最後まで鑑賞。

その後の「1次審査会議」で、セレクトション・メンバー全員が集まり、各人が推薦し、議論を重ね、2次への通過作品を決定。

続く「2次審査」では、1次審査通過作品をセレクトション・メンバー全員が鑑賞。

「2次審査会議」では再び全員が集まり、2日間にわたる討議を重ねた後、最終的にPFFディレクターが入選作品を決定。

こうして、およそ4か月にわたるセレクトションが終了し、発表となりました。

### セレクトション・メンバー

荒木啓子 PFFディレクター

植木咲楽 映画監督

榎本高太郎

映画製作管理/映画版權営業

大久保 渉

ライター/編集者/パブリシスト

樺沢優希

字幕翻訳者/映画館スタッフ

久保田ゆり PFFスタッフ

今 祐仁 イェール大学映画研究者

杉野志保 映画配給会社社員

竹中翔子 映画館支配人

長井 龍 映画プロデューサー

中根若恵 映画研究者

中山洋孝 映画批評家

新谷和輝 ラテンアメリカ映画研究者

森川和歌子

映画人材育成事業スタッフ

吉田由利香

デザイナー/元映画館館長

和島香太郎 映画監督

※50音順、敬称略

### 最終審査員



石井裕也

Yuya Ishii

映画監督

大阪芸術大学の卒業制作として監督した作品『剥き出しにっぼん』(05)が、第29回びあフィルムフェスティバルでグランプリを受賞。第19回PFFスカラシップ作品『川の底からこんにちは』(09)で商業映画監督デビュー。第37回日本アカデミー賞で『舟を編む』(13)が最優秀作品賞、最優秀監督賞を受賞。『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』(17)が第91回キネマ旬報ベスト・テン第1位。2023年に『愛にイナズマ』、『月』が公開される。



石川 慶

Kei Ishikawa

映画監督

ポーランド国立映画大学で演出を学ぶ。『愚行録』(17)が、ベネチア映画祭オリゾンティ部門に選出されたほか、新藤兼人賞銀賞、ヨコハマ映画祭新人監督賞など受賞。『蜜蜂と遠雷』(19)では、毎日映画コンクール日本映画大賞、日本アカデミー賞優秀作品賞など受賞。2021年には、世界的なSF作家であるケン・リュウ原作の『Arcアーク』を監督。『ある男』(22)は、ベネチア映画祭オリゾンティ部門、釜山国際映画祭ではクロージングに選出され、日本アカデミー賞で最優秀作品賞含む最多8冠を飾るなど、国内外から大きな注目を集めた。

# Selected 22 Films

## PFFアワード2023 各賞

### 最終審査員の選ぶ3賞5作品

- ▶ **グランプリ** 〈副賞100万円〉  
映画監督として最も期待したいつくり手に贈られます。
- ▶ **準グランプリ** 〈副賞20万円〉  
グランプリに迫る才能を感じさせるつくり手に贈られます。
- ▶ **審査員特別賞** (3作品) 〈副賞10万円〉  
無視することができない才能を感じさせるつくり手に贈られます。

### PFFパートナーズの選ぶ賞

- ▶ **エンタテインメント賞** (ホリプロ賞)  
作品の優れたエンタテインメント性に対して贈られます。
- ▶ **映画ファン賞** (びあニスト賞)  
一般審査員の方々に選出された賞。「映画館で観たい」才能に対して贈られます。

### 観客の選ぶ賞

- ▶ **観客賞**  
観客の人気投票により、最も高い支持を得た作品に贈られます。  
映画祭会場にて、各プログラムの上映の際に配布される「観客賞投票用紙」による投票の他、DOKUSO映画館でのオンライン視聴でも1人1票の投票が可能です。

※各賞受賞者にはPFFスカラシップへの挑戦権が贈られます。

※映画祭最終日には、受賞作品の上映を行います。プログラムは、前日(9月22日)に公式サイトにて発表いたします。

- 🕒 9.23⑨11:30~ 準グランプリ受賞作品上映
- 🕒 9.23⑨14:30~ グランプリ受賞作品上映

## PFF Award Competition 2023 Juries



### 岸田奈美

Nami Kishida

作家

関西学院大学人間福祉学部社会起業学科に在学中に株式会社ミライロに創業メンバーとして参加、10年にわたり広報部長を務めたのち、作家として独立。Forbes「30 UNDER 30 Asia 2021」選出やテレビ出演など活躍の場を広げている。著書に『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』(小学館)、『もうあかんわ日記』(ライツ社)、『飽きっぱいから、愛っぱい』(講談社)など。



### 國實瑞恵

Mizue Kunizane

プロデューサー

1976年、俳優監督のマネージメントを行う純牛倶楽部を設立後、多くの今村昌平監督作品に参加。映画プロデュース作品に、『KOROSHI 殺し』(00/第53回カンヌ映画祭監督週間正式出品)、『恋の罪』(11/第64回カンヌ映画祭監督週間正式出品)、『SRサイタマノラッパードロードサイドの逃亡者』(12)、『希望の国』(12)、『PLAN 75』(22/第75回カンヌ映画祭 カメラドールスペシャルメンション受賞)、『逃げきれた夢』(23/第76回カンヌ映画祭ACID部門正式出品)。その他、テレビ朝日「時効警察」の企画に参加。



### 五月女ケイ子

Keiko Sootome

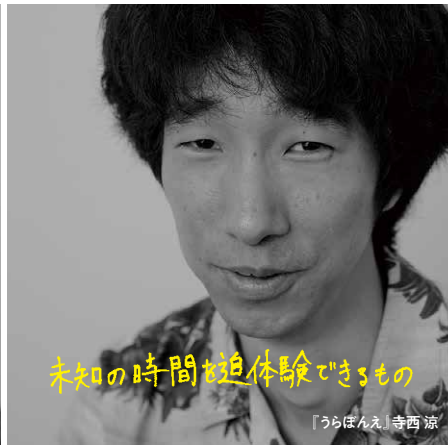
イラストレーター

大学で映画学を学び、映画研究部で8ミリフィルムの自主映画に触れる。独学で絵を学び、イラストレーターとしての活動を始め、イラストを担当した「新しい単位」がベストセラーに。舞台「男子はだまってなさいよ!」「シティボーイズライブ」や、映画『インスタント沼』(09)、『WE ARE LITTLE ZOMBIES』(19)に出演するなど俳優としても活躍。雑誌びあの連載では、独自の切り口の映画コラムを発表。古事記を大胆に脚色したコミック『レッツ!! 古事記』(ポプラ文庫)など著書も多数。2018年には台湾で大規模な展覧会「五月女桂子の逆襲」を開催。



わからないので作っています

『移動する記憶装置展』たかはし そうた



未知の時間軸体験できるもの

『うらばんえ』寺西 涼



ながい遊び

『完璧な若い女性』渡邊龍平

22 Directors Selected for PFF Award 2023  
 PFF2023の入選監督たち

Q.あなたにとって、映画とは？



映画はカホ紙

『Sewing Love』許願



あそび

『烏籠』立花 遼



誰かの運命を変えるもの

『肉にまつわる日常の話』石川真衣



幻想

『ParkingArea』増山 透



出会い直すこと

『ふれる』高田恭輔



脱皮

『ホモ・アミークス』馬淵ありさ



蚤気楼

『また来週』ハインズ麻里子





2023年/カラー/71分  
 監督 脚本: たかはし そうた  
 プロデューサー: 徐 梅  
 撮影・照明: 費 嘉潤  
 録音・サウンドデザイン: 浪瀬駿太  
 編集: 趙 冬梅  
 出演: 佐々木 想、影山祐子、廣田朋菜

PFF Award 2023

🕒 9.14 ⑧ 16:00 ~ 小ホール / 9.17 ⑩ 11:30 ~

## 『移動する記憶装置展』

Recommend

### 記憶装置を仕掛けられた団地は 過去と現在を行き来する

元気に生まれ、にぎやかに成長し、やがて静かに老いていく。そこから懐かしさや寂しさが見えてくる。これ、団地のことである。

ある日、団地に芸術家やってくる。彼が始めた作品づくりから団地の人生が浮かび上がってくる。団地の過去や現在、さらには未来までもが見えてくる。まるで団地が主人公。そんな映画、観たことありますか？

そして、団地を見つめることで浮かび上がってくるのは人、そこに住み関わる人、結局、人なのである。

芸術家の数日の物語を通して、団地の数十年という壮大な物語を感じてほしい。

森川和歌子 映画人材育成事業スタッフ

### 監督: たかはし そうた

たかはし・そうた / 1991年生まれ、神奈川県出身。東京藝術大学大学院映像研究科で学ぶ。大学院休学中に制作した『上飯田の話』(21)が今年4月に劇場公開。本作の主演である映画監督の佐々木想とは短編映画の現場で出会い、今回出演を依頼した。



Profile

### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

大学院の修了制作の企画を考えていた時に、以前撮影をした上飯田ショッピングセンターに行きました。徐々に訪れると前よりも店舗数が減り、それによってレイアウトも変更されていました。数年後にはこの建物も、この場所も、変わっているかもしれない。せめて今を映しておきたい。そういう思いでつくりました。

### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

画面だけでなく、音に注目していただくと嬉しいです。今作はモノラルで、左右のスピーカーから同じ音が聞こえます。そんな中、音でどう画面の広がり表現するか、随所に工夫があります。特にラストショットでは、普通なら撮影現場でNGにする音が…。これも上飯田という町だからできたことだと思っています。

### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

高校生の時に短い映画をつくりました。その編集作業で切り返しショットを試した時、人物が本当に見つめ合っているように見えるということに感動しました。そこから映画をつくるのが面白くなり続けています。

### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

手洗い、うがい、手指消毒、マスクのかけ外し…コロナ下でのこうした動作が日常的な習慣として根付いたことに大きな影響を受けました。一度、コロナ前の設定で映画を撮ったことがありますが、こうした動作を省くとどこか出演者の動きがぎこちない。おそらく俳優である以前に、人として習慣化された動きになったからだと思います。その時に、これから映画をつくろうとしたら、もうコロナは無視できないなと思いました。

### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

セルビア語の習得に挑戦したいです。約10年前に初めてセルビア北部の街スポティツァに行き、すっかり街や人が好きになりました。次に行く時には現地の方とセルビア語で話せるようになりたいです。

Director's Voice



2023年/カラー/28分  
監督・脚本・編集・音楽：寺西涼  
録音：馬原洋幸、三村一馬  
撮影応援：団塚唯我  
制作：稲生遼  
出演：田口ゆたか、阿部能丸、吉村健太郎、加島知枝、下東久美子

PFF Award 2023

## 『うらぼんえ』

🕒 9.9📍18:00~/9.13📍15:00~小ホール

### Recommend

ゆうしゅかきょう

幽趣佳境な物語る力に誘われるひと時。  
お盆が実写化!

**死** 生観、物語るアイデアなど、独自の調色で真っ白な映写幕を新奇に彩るつくり手は強く推したい。PFFアワード2020 準グランプリ『屋根裏の巳巳己』の寺西涼監督。かつて幼子と死に別れた男が、浜辺で会ったおじさんに不思議と惹かれていくうちに、何気ないはずの日常が…。タイトルや冒頭を観て、早々にテーマや命題に感嘆する作品とは趣が異なり、前作も今作も、観ていて気付けば「なんてこった!」とその深遠な魅力に引きずり込まれている。シャカシャカ、トウオン、フェーン(擬音ムズい)とかの音もそう。セリフもそう。奥ゆかしく味わい深い。

大久保 渉 ライター/編集者/パブリシスト

監督:寺西涼

てらにし・りょう/1995年生まれ、神奈川県出身。東京藝術大学美術学部絵画科に在学中、デヴィッド・リンチ監督に触発され、映画づくりを始める。前作『屋根裏の巳巳己』がPFFアワード2020で準グランプリに。以降も精力的に映画制作を続ける。



Profile

### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

この映画は俳優事務所主催のワークショップでつくったものです。それ以前から死後結婚の風習に興味があり、亡くなった家族に対して「あの世で結婚して幸せになってほしい」と願う人とはどんな人物なのかをあれこれ想像していました。それをベースにしつつ、ワークショップの中で生まれたアイデアや俳優さんの人柄を演出としてどんどん取り入れてつくっていきました。

### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

僕は作品をつくる時に、一つのジャンルに当てはまらない作品にしたいという意識が常にあります。この映画についても題材はホラー的ですが、どこか抜けのいい感じを出そうと心がけていました。特に音楽のバランスにはこだわっています。音楽によって映画全体の雰囲気ガラリと変わってしまうので、怖さもありつつ間抜けさもあるような、この映画にピッタリなバランスを探りました。

### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

『インランド・エンパイア』『リアリズムの宿』『光りの墓』です。元々僕は画家志望で、絵と比べて大勢の人が関わる映画制作は難しいイメージがありましたが、この3作品が「自分にもできるかも」と思わせてくれました。

### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

映画の中でコロナ禍を題材にしたり、役者がマスクを着けたりすることは作品にとってプラスなのかなど、作品の中でのリアルはどうあるべきかということを前より考えるようになったかもしれません。映画と現実とは別だと割り切ることもできますが、映画と現実は無関係ではないと思っています。

### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

オリジナルの楽器をつくりたいと前から思っていました。映画の劇伴には既存の楽器が使われることが多いと思いますが、それには出せない音がほしい時がしばしばあります。

Director's Voice



2023年/カラー/65分  
監督・製作・脚本：渡邊龍平  
助監督・スチール・撮影：サマサ・シシー  
スター  
撮影：鈴木陽太郎  
照明：八森香央海  
録音・整音・ミキシング：青山武生  
出演：perfect young lady、大友晶太郎、竹内春、新井吉亮、田中由美子

PFF Award 2023

## 『完璧な若い女性』

🕒 9.12@13:00~小ホール/9.17@18:00~

### Recommend

#### PYLって誰だ？ 令和のニューレトロ歌謡青春映画

**花** 火を見るため東京から地元の静岡に車で向かう江莉夏と黒部。江莉夏が道中、あるカセットテープを聴こうと提案する。そのテープは幼なじみの汐音から送られてきたもので、謎の歌手の曲が収められていた。

全編を実在するアーティストperfect young ladyの電子音楽が彩り、本人も出演して物語を見つめる守護天使のように歌って踊りまくる！

2人の小旅行は楽しくって切なくて、ちょっぴりどきっ♡そして我々は否応なく「完璧な若い女性」について思いを巡らすことになる。監督の“好き”がめいっぱい、やり切っている1本！

樺沢優希 字幕翻訳者/映画館スタッフ

#### 監督：渡邊龍平

わたなべ・りゅうへい/2000年生まれ、東京都出身。武蔵野美術大学映像学科に在籍。レコード店で流れていたperfect young ladyに衝撃を受け、本作への出演を依頼。制作には映画学校出身の父も協力した。本作の自主上映イベントを企画中。



### Profile

**Q1** なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。  
かねてより好きだった「GS映画（歌謡映画）」を、今活躍する若いアーティストと共に現代に復活させてみたかったからです。

**Q2** 「ここを観て！」というポイントは？  
やはり歌謡映画なので、7曲かかるperfect young lady (PYL)さんの歌唱シーンです。PYLさんの楽曲が流れることで、グッと映画に安らぎと緊張、興奮をもたらしてくれたと思います。また、個性あふれるキャラクターたちも素敵で、ちょっと会ってみたいな、と、そんな風に思っていたけると嬉しいですね。

**Q3** 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。  
幼少から昭和の特撮などを観て育ち、特に小学校6年生の時に観た『太陽を盗んだ男』に衝撃を受け、自分でも映画を撮ってみたいくなりました。

**Q4** コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。  
前作ではコロナの設定はなくつつも、主人公たちがマスクの人混みに消えるラストシーンにするなど、逆にコロナを意識したからこそ出たアイデアもありました。しかし今作では、コロナの描写は全くなく、観客に映画の中でくらは日常から離れて楽しんでもらいたいと思いました。

**Q5** 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？  
演劇の演出などに関心があります。映画では届けられない生の臨場感をつくってみたいです。

### Director's Voice



2023年/カラー/10分  
監督・脚本：鈴木凜太郎  
撮影・照明：内堀駿介  
録音：森田ことわ、根本大雅  
助監督：大竹洸也  
出演：小林菜大、土屋翼、村上頭輔、鈴木凜太郎

PFF Award 2023

## 『こころざしと東京の街』

🕒 9.9🕒18:00~/9.13🕒15:00~小ホール

### Recommend

#### 誰も身に覚えのある、友との別れの予感!

**高**校生の佐藤は卒業後の進路を見出せずにいる。一方、友人の金本は「就職に有利そう」という理由で経営学部に進むことを決めている。2人とも特にやりたいことがあるわけではないが、世間的で常識的な決断を先延ばしにできる人間は多くはないのだ。

割り切って先に進む金本は孤立しているがまぶしい。佐藤は中途半端な状況にしがみついたまま友を置き去りにしたのか。それとも置いていかれた側なのか。この後ろめたさと焦りには覚えがある。作者の確かな表現力によって、苦い記憶が初めて掘り起こされたような驚きがあった。

和島香太郎 映画監督

監督：鈴木凜太郎

すずき・りんたろう/2001年生まれ、東京都出身。東京工芸大学芸術学部への入学を機に映画に目覚め、自主制作を始める。本作は大学1年の時に書いた脚本に、現在就職活動中の自分を重ねた。理想の映画はロペール・ブレッソンの『ラルジャン』(83)。



Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

高校卒業直後にこの作品の脚本を書きました。脚本を書いた当時の自分の社会に対する無力感や不信感をしっかりと対処しないままなことにしてしまわないように記録を目的として制作しました。誰かのために撮った作品ではないですが、観た人の心を運良く動かすことがあれば嬉しいです。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

個人の小ささと社会の大きさのギャップをテーマにこの作品を撮りました。登場人物の中の大きな葛藤と決定的な瞬間をどうやって小さなまま表現できるか慎重に考えてつくったので、そこに注目してもらえると嬉しいです。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

「フランシス・ハ」という映画です。決して特別じゃない、人の持つ不完全さの魅力に気付かされました。「劇的で壮大な物語でないといけない」という自分の中にあった映画への先入観を払拭してくれた作品です。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

生活の中で生まれる行動の全てに必要な性を問いかけられた期間だったので、映画を撮ることや観ることの意義を改めて考えるきっかけになりました。映画館に足を運ぶというのは思っているよりも特別な行為だと気付き、コロナが少し落ち着いて作品を撮ることになった時は独りよがりなものにならないよう意識しました。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

鳥に興味があるのでいつかバードウォッチングをしてみたいです。

Director's Voice





2023年/カラー/24分  
監督・脚本・撮影・衣装・編集・整音：  
高橋栄一  
プロデューサー・助監督：望月亮佑  
照明：三塚俊輔  
録音：濱田耕司  
録音：岡上亮輔  
出演：小沢まゆ、野田英治、保土田寛、  
高間ゆめみ

## 『サッドカラー』

PFF Award 2023

🕒 9.10@14:30~/9.14🎫13:00~小ホール

### Recommend

#### ディストピア世界を淡々と描く ドライな感性にシビれる

夫婦の平穏な生活はある日、妻が悲しみの感情を失うことで緩やかに崩れていく…。悲しみ以外の感情が異常と見なされるディストピア的世界で繰り広げられる男女の密室劇。感情を単なる個人的事象と捉える考えを宙づりにすることで、感情=私的な領域がいかにも公/権力の影響のもとにあるかを、本作は批評的にあぶり出す。

複雑化するメディア環境が公私の境界を曖昧にする現代社会。本来、安らぎの場所であるはずの私的空間が、容易に抑圧的な怪物に転じてしまうという居心地の悪い事実を淡々と見せつける野心作。

中根若恵 映画研究者

#### 監督：高橋栄一

たかはし・えいいち/1990年生まれ、岐阜県出身。建築、ファッションを学んだ後、塚本晋也監督『鉄男』と出会い映画の道へ。同監督の『KOTOKO』等に演出部として参加。自主制作した作品は30本以上。新作長編『ホゾを咬む』が12月劇場公開予定。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

ドラマや広告など、世の中にあふれる笑顔が許せなくなってきたこの作品をつくりました。笑顔で楽しくあることが正しいことだと強要されているようで、それが苦しくて辛く感じていた時期だったからです。自分にとって安寧な社会は陰鬱な世界じゃないかなと思い、「悲しみ」をテーマに制作しました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

深刻過ぎる夫婦のお芝居。冷静に聞くと変なセリフ。人の温かみがないムード。そしてなによりも、涙。これを見て笑える人は遠慮なく笑ってほしいです。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

19歳の時に出会った塚本晋也監督『鉄男』が僕の映画づくりの根底にあります。塚本監督の強烈さや独特さに惹かれて監督を志しましたが、今では塚本監督独自のミニマルなテーマ性に惹かれていたんだと思います。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

コロナ禍によって現場を失った役者さんや技術さんなどで自主映画にチャレンジする方が増え、映画祭に集まる作品のクオリティーが格段に上がったと感じています。元々監督を目指している僕のような人間は、今まで以上に監督としての価値を問われているように思います。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

音楽と絵画。無限の時間の中で孤独に作品と自分に向き合ってみたい。それと映画衣装。北村道子さんのような仕事をした。塚本晋也監督と北村道子さんは、いつまでも僕の中の偉大な憧れです。

### Director's Voice



2023年/カラー/52分  
監督・脚本・編集：石川泰地  
撮影・グレーディング：新藤早代  
録音・MA：寒川聖美  
録音：佐藤友亮  
音楽：関口諭  
出演：石川泰地、国本太周

PFF Award 2023

## 『じゃ、また。』

🕒 9.10@18:00~/9.15@11:30~小ホール

### Recommend

#### 残り充電2%な男の、モラトリアム迷宮劇

雨が降る夏の日。主人公の家に友人が訪ねてくる。ひょうひょうと振る舞う2人だが、何やら様子がおかしい。会話がユーモラスなリズムで心地いいから、グングン観てしまう。ある瞬間、この映画のことがたまらなく好きになった。時間、距離、空間、重力。あまねく要素を、モンタージュによって軽やかに超越できるのが映画であると、監督は改めて私たちに投げかけてくる。

「どこにも行けていない」は即ち、「どこにでも行ける」可能性の始まりだ。クールで冴えた語り口とは裏腹に、沸々とした泥臭い熱さを感じさせる魅力的な52分間。

植木咲楽 映画監督

監督：石川泰地

いしかわ・たいち/1995年生まれ、東京都出身。早稲田大学在学中から自主映画を撮り始める。前作『巨人の惑星』がPFFアワード2021に入選。現在、テアトル新宿と山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局で働きながら映画制作を続けている。



Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

目を疑い、耳をふさぎたくなるような出来事が次々に起こっていて常に不安です。一方でニュースに胸を痛めながら何事もなかったかのような顔ができていた自分もいて、そのギャップに目まいがするような想いにもなります。どう受け止めて生きていけばいいのか、答えの出ないであろう問いについて考えるためにこの映画をつくりました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

取るに足らない会話ばかりが繰り返される映画です。取るに足らないセリフの一つ一つにこだわったので、注意深く聞いてもらえたら嬉しいです。この緊張感の高まる時代には「取るに足らないこと」をこそ死守するべきではないか、という主張を「取るに足らない」形で表現した作品だとも言えるかと思います。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

強いて一つ挙げるなら、幼少期に繰り返し観た『トイストーリー』です。16歳ぐらいまではピクサーのアニメーターになりたいと思っていました。それが起点になって、次第に映画全般に興味広がりました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

本作は2年前にPFFで上映していただいた『巨人の惑星』という短編と同時に考え始めました。予算の都合に加え、感染対策の面でも大所帯の撮影になると自分一人では管理し切れず、かつ責任も負い切れなくなるので、なるべく少人数で制作できるものを、と考え、前作や本作はこのような形になりました。また緊急事態宣言により映画館が2ヵ月休館した時、仕事がなく部屋にいるしかなくなった経験は内容に影響していると思います。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

これというものがあまり思い付かず、くだらない回答で恐縮ですが、音楽は好きなのに楽器が全く弾けないのが悔しいので、何かしらの楽器が演奏できるようになりたいなどは、ずっと思っています。

Director's Voice

2023年/カラー/8分  
監督・脚本・編集・作画・色付け：許願  
音楽・音響・効果音：佐藤七海

PFF Award 2023

## 『Sewing Love』

🕒 9.10@11:30~/9.13@18:00~ 小ホール

### Recommend

#### 縫う／愛。どう受け止める？ 真に心に迫るアニメーション

そばにいたいと相手を抱き寄せ、己の体に縫い付ける。一方は微笑み、一方は泣き……。誰かを好きになることで沸き起こる感情、歓喜また狂気。そのうねり回る感情をアニメーションで照射し、穴、針、糸、蝶、花などを用いて描出していく許願監督の胸の内が気になった。タイトルに〈Love〉とあるけれど、そもそも本作で描かれるものを私は〈愛〉と呼びたくはない。ただ、それも〈愛〉の一つの面だと、かつて知人から言われたことがある。観て、感じて、想像してと、あなたはどう思うのと迫られる。おののくほどの、描ききる強い衝動を感じた。

大久保 渉 ライター／編集者／パブリシスト

#### 監督：許願

きょ・がん／1995年生まれ、中国上海出身。大学卒業後はゲーム会社で働くが、作品づくりへの思いが募り、2018年来日。多摩美術大学大学院に入る。本格的なアニメ制作は本作が初めて。自宅で一人原画を繰り返し描き、2年半かけて完成させた。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

実は当初のテーマは愛や支配欲ではなく、自分の欠陥、孤独な人間に関することでした。その時はシナリオが複雑すぎて、短編アニメーションには向かないので諦めました。でも、当時私が最も面白いと思ったキャラクターデザイン、一人がもう一人を包むというデザインはそのまま残されました。そして、この造形をベースにして物語を発想しました。

#### Q2 「ここを観て！」というポイントは？

止まらずに動き続けるカメラワークと極端なアングルによって展開される物語に注目してほしいですね。「観ていて目まいがする」というようなコメントもありました。もちろん感情の起伏によって変化する色と輪郭線にも注力しました。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

大学時代にアニメ作品をつくって面白く感じましたが、未来の職業とするには度胸がありませんでした。日本に留学後イラストを描いているうちに、やはり動いているものが好きだと思い、やりたいことを自覚しました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

私はデジタルアニメーションをやっていますし、今回の作品は制作期間も長いので、ほとんど影響はありませんでした。毎日家に引きこもって絵を描いたり、疲れたらスーパーに行っておいしいものを買ってご飯をつくらたりしていました。逆に、母国のニュースを見るが多かったのですが、私は3年間日本にいるので全く実感できず、異邦人のような違和感がありました。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？

音楽です。映像作品に不可欠なもので、音楽を入れることで画面全体のテンションが上がります。時々歌や歌詞からインスピレーションを得ることもあります。楽器を勉強して、自分で音楽をやってみたいと思います。

### Director's Voice



2023年/カラー/28分  
 監督・脚本・編集：劉 舸  
 撮影：青石太郎  
 助監督・美術・カラーグレーディング：  
 王子易  
 助監督・記録：鄧 雅文  
 制作：蘇 暢  
 出演：郭 嘉雷、アライ ジン、范 西滢、塚  
 田愛実

PFF Award 2023

## 『ただいまはまだ』

🕒 9.12🕒16:00～小ホール/9.16🕒11:30～

### Recommend

#### 長い夏の日、“今”を感じる

📅 本に住む中国生まれの李は従兄弟の高と久しぶりに再会、友人の太郎の家で一晩過ごすことになる。

ただ“今”をすくい上げるように映画の中で夏がちらちらと現れる——蝉の鳴き声、自家製アイス、散水器、突如背景に映り込む稲妻。表面上静かに見える彼らの、実は穏やかではない内心が画面に点滅する。

そして、最も緊迫したボクシングのシーンで思いがけず安らぎと希望を見る。

杓子定規に捉われない作者の眼差しの透明さ、懐の広さに解放される。本作で外国人、はたまた日本人がありがたなり他者として描かれていないことは言うまでもない。

今 祐仁 イェール大学映画研究者

#### 監督：劉 舸

りゅう・か/1994年生まれ、中国北京出身。経済学を学びに来日したが、撮影の青石太郎との出会いを通じ、映画制作を開始。本作は編入した日本大学芸術学部の卒業制作で初監督作品。現在、制作会社でTV番組などを担当。憧れの監督はエリック・ロメール。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

4年間の異国生活を経験して、「家に帰ることは難しい」という問題を意識しました。帰りたい気持ちと長い間帰らなかった地元、家族との分断に苦しむ人々がたくさんいることに気がきました。そこで、「帰るか帰らないか」の葛藤を描く作品をつくらうと思いました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

顔も文化も似ていると言われる日本人と中国人は、お互いに「同じ」という先入観を持ちがちですが、実は違いが多いです。言葉という理性を考えず、些細な気持ちと動きを意識しながら撮らせていただいた作品ですので、言葉の壁を越えて人間として対峙する瞬間を観てください。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

映画ではなく進学予備校の先生との出会いがきっかけです。アルバイトで稼いだお金を制作費にして自由に映画を撮っていく彼の人生スタイルに憧れて、「一人とカメラだけでもいい、映画を撮りたい」と思いました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

コロナ禍の最中は学生だったため、実践授業になかなか参加できず残念でした。卒業制作ではなく、論文だけで卒業した友達もいます。人と人の心理的な距離が遠くなり、みんなと一緒に頑張る環境がなくなったことを実感しました。なので、作品の責任者として、場づくりということはさらにハードルが上がったかと思います。そこに出すお金と工夫は昔よりも多いかもしれません。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

漫画を描くか本を書くことに挑戦してみたいです。映画よりもっとファンタジックで、もっとお金がかからないからです。

### Director's Voice



2023年/カラー/20分  
監督・脚本・編集：大野世愛  
撮影：吉田 嶺、前川季哉  
録音：色川翔太  
照明・制作：根岸一平  
出演：小澤うい、緋水 綾、高橋輝仁

PFF Award 2023

## 『ちよっと吐くね』

🕒 9.9📍14:30~/9.13📍11:30~ ホール

### Recommend

#### 「普通」はいない。私たちは「吐き友達」

隣り合うトイレの個室の壁を挟んで、おそらく拒食症の2人の女性はささやかな親交を結ぶ。この映画は彼女たちの嘔吐をネガティブな拒絶というよりも、苦しみの中で自己を受け入れようとする行為として見つめる。

しかし、2人の距離はある装置によって屈折し、自分のためだけの嘔吐に他人の存在が巻き込まれていく。エゴや承認、共感、孤独をぐちゃぐちゃにしながら深まる2人のやり取りの先には、突き放したような優しいような、終わらない苦しみを一緒に生きるために大事な何かを託していく強烈な余韻が残る。

新谷和輝 ラテンアメリカ映画研究者

#### 監督：大野世愛

おおのせなり/2000年生まれ、北海道出身。温泉宿で育つ。映画美学専門学校・コースで学び、昨年より自主制作を始めた。本作は監督3作目。現在、北海道と東京を行き来しながら意欲的に映画制作を続けている。今秋、中編を撮影予定。



### Profile

### Director's Voice

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

制作のきっかけは純粋な興味です。食欲を阻害するほどの可愛くなりたいという欲求とは。そして、壁越しの会話や普段言えないことを吐ける場所という要素も思い付き、そそられました。そこにいびつさを分かち合う2人(袖咲と静葉)が生まれ、彼女らの可愛いとは一体何であるのか考えてみよう…と制作が前進していきました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

まず、この作品における私たちはトイレの外側からの意思です。中にいる袖咲と静葉には、どういった弱さと欲望があり、2人が接触することで、それがどう変化していくのか。容姿や行動そして特に言葉から、その変化をじっくり観察して、作品にのめり込んでほしいです。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

きっかけは特にないかもしれませんが。13歳の時にふと、監督って楽しそうだなあと下校中に思ったのが始まりのような気がします。監督になることが決まった後から、観たり聞いたり読んだり、映画に触れ始めました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

コロナ下で映画美学学校に入り、映画の勉強を始めたので、コロナ下での制作は以前を知る方々よりはノンストレスだったかもしれません。むしろ自分の学びの数と共に、社会での制限も徐々になくなり、できることが増えていく感覚で楽しかった記憶があります。ただ、観たい映画の公開中止に悲しんだり、SNSでの不毛な論争から一時期SNSをやめたり等、閉鎖的な感情を押し付けられ、げんなりしていたのも事実です。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

詩集を出版してみたい。17歳の時から詩を書くことが趣味で、かれこれ500作品以上は書いているので、まだ誰にも見せたことすらないものですが、いつか出版してみたいです。



2023年/カラー/57分  
 監督・脚本・編集：山口真凜  
 プロデューサー：田中佐知彦  
 撮影：佐久間アキラ  
 照明：照井康平  
 サウンドデザイン：鈴木紀貴  
 出演：サトウヒロキ、村上由規乃、諏訪  
 珠理

PFF Award 2023

🕒 9.9📍18:00~/9.13📍15:00~小ホール

## 『逃避』

### Recommend

#### 追い詰められた 2人の沈黙が語る愛のかたち

**白** 自分が犯した罪を受け止められない和真。恋人の彩乃は彼の苦悩を理解しようとするが、和真は防衛的になるあまり、思わず彼女を傷つけてしまう。そんな和真に、彩乃が取った行動は…。

大切な人が、自分の犯した罪に押しつぶされそうになって独り苦悩する時、人はどこまで寄り添うことができるのか。現実に向き合えない恋人に対して、冷静に未来を見つめる綾乃の芯の強さと優しさ、そしてクールな態度がかっこいい。抑制の利いた演出で、一つ一つの所作が丁寧に描かれる。沈黙する“溜め”の時間の使い方もすばらしい。

久保田ゆり PFFスタッフ

監督：山口真凜

やまぐち・まりん/2000年生まれ、栃木県出身。高校卒業後に上京、ネット仲間を募り、映画制作を始める。プロデューサーの田中佐知彦との出会いを機に、まつむらしんご監督や高橋泉監督の現場に入るように。本作のキャストは全員、現場で知り合った。



Profile

**Q1** なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。  
 「なぜこの作品をつくらねばならなかったのか」ということを、作品が完成した今になっても、考えています。ただ、この映画を撮らずに生きていくことは、自分に対して不誠実であるような気がしていました。脚本を書き進めるにつれ、僕自身の「実感」が物語に反映され、映画ができあがりました。

**Q2** 「ここを観て!」というポイントは？  
 やはり、サトウヒロキさん、村上由規乃さん、諏訪珠理さんの素敵なお芝居が、特に観てほしいポイントであると思っています。

**Q3** 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。  
 エドワード・ヤンの『牯嶺街少年殺人事件』です。観終わって、涙が止まりませんでした。こんな作品を撮ってみたいと、心からそう思いました。

**Q4** コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。  
 コロナが蔓延し、緊急事態宣言が発令された中、僕は上京しました。家にこもりきりの生活の中で、様々な映画を観、多様な小説を読みました。その蓄えが今、創作する上での下地になっていると思います。けれども正直、「コロナ」についてあまり興味も関心もなく、ただ起こってしまったことという認識でしかありません。

**Q5** 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？  
 映画以外で挑戦してみたいことは今のところ、ないです。

Director's Voice



2023年/カラー/66分  
 監督・脚本・企画・編集:立花 遼  
 撮影・カラーグレーディング:天野伊雄  
 助監督:山崎真理子  
 録音:MA・編集:池島 快  
 衣装:倉田彩音  
 出演:山崎龍吾、寺田智彦、上原恭平、  
 奥村海斗、櫻風ことは

PFF Award 2023

🕒 9.10@14:30~/9.14@13:00~ ホール

## 『鳥籠』

### Recommend

#### 少年の「変化」を温かく、 しかし容赦なく描く

た だいつもの公園で、いつものようにだべっていただけの4人の男子高校生。しかしひと夏の間に、「受験」「薬物」をやっている先輩」「初恋」「親」といった様々な出会いと出来事が絡み合い、それぞれの未来を分岐させていく。

成長譚と呼ぶにはあまりにも残酷で容赦がない。それでいて、友人たちとの関係に悩む主人公には、どこか身に覚えのあるような愛おしさを感じてしまう。4人の少年が“4者4様”の選択で“変わってってしまう”姿を、ただ真摯に、厳然としかし温かく描く、監督の人を見つめる視線の深さに敬意を抱いた。

杉野志保 映画配給会社社員

#### 監督:立花 遼

たちばな・りょう/2001年生まれ、大阪府出身。京都芸術大学映画学科に入学し、2年生の授業で短編をつくったことを機に自主制作を始める。本作は監督2作目。自身の子ども時代を反映させた物語を、約1ヵ月かけて撮影した。趣味はラップ。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

私は、一つの町で小さい頃から仲のいい友達と生きてきました。その関係や環境が、足かせになったこともありました。ある日これを変えないと自分も変わらないと気付きました。高校を卒業するくらいの時に、久しぶりに会う友達を見て、伝えないといけないと感じました。その時にこの作品をつくろうと決めました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

やっぱり4人のノリを観てほしいですね。どこかイキきてない感じとか。アドリブで面白いと思ったノリなんかも入れたりしています。あとはキャラクターのバックボーン的なものも意識して衣装や美術もこだわっているんで、そこにも注目してもらいたいです。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

「8 Mile」に大きな影響を受けていますが、小さい時に当時好きな女の子がいて、その子に会うために映画監督になる!と意気込んだのが一番のきっかけです。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

おうち時間が増えた分、より人との関わりを大切にしようと思えました。一人で家にこもって考えるのももちろんです。でも友達と遊んだり、先輩とご飯に行ったり、少しずつ社会が動き出したタイミングでより人の大切さを感じました。友達と会ったり、話したりするだけで面白いことが浮かんんだり、忘れていたことを思い出したりします。こういったことが映画づくりに直結していると感じています。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

お金がほしいです。大金を持ってみたいです。そのために自営業にチャレンジしてみたいです。何をするかは秘密ですけど、大金を持った上で人生はお金だけじゃないと言いたいです。

### Director's Voice



2023年/カラー/4分  
監督・脚本・編集:石川真衣

PFF Award 2023

## 『肉にまつわる日常の話』

🕒 9.10@11:30~/9.13@18:00~小ホール

### Recommend

#### 多彩なギミックで、 ポップにたたみかける4分間!

とにかく本作の石川監督は肉が苦手らしい。この作品は、監督である彼女自身が「肉」にまつわるエトセトラと日々格闘する、とてもパーソナルな4分間の独白である。その短い時間の中で、ありとあらゆるアニメーションの技法を用いて、涙ぐましい日々の努力を、目まぐるしく楽しく魅せてくれる。しかし、カットの多彩さやポップさ、勢い、そして彼女の語り口によって包まれた問題の本質は、本当に彼女だけのものなのだろうか。ともかくこの作品を観た後は、「エビとトマトのクリームパスタ」を見つけるたびに、この作品を思い出すことになるだろう。

吉田由利香 デザイナー/元映画館館長

#### 監督:石川真衣

いしかわ・まい/2000年生まれ、愛知県出身。名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科に在籍。肉を食べるのを幼稚園の頃から避けてきて、周囲に面倒くさがられる空気を感じ続け、いっそ宣言してしまおうと本作の制作を決意。前作は抽象アニメを手掛けた。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

作品(公の場)で自分の話をすることに興味があって制作しました。きっかけとしては、YouTubeに投稿されているvlogです。非常に個人的な内容なのに関わらず、よく知らない他人の投稿をつい見てしまうことがあると思いますが、この現象が面白いと感じ、私も個人的な内容をテーマにしました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

目まぐるしく変化する色々な映像表現に注目してほしいです。また、実写映像をベースにした手法を用いて制作しているので、実写ならではのちょっとした温かみみたいなものを、アニメーションの中に感じてもらえると思います。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

湯浅政明監督の『マインド・ゲーム』や、映画作品ではないですが『四畳半神話大系』には影響を受けています。独特な色遣いや実写映像を用いた演出に衝撃を受け、私の中のアニメーションの概念がいい意味で崩れました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

大学の授業が遠隔になったり、展示や上映会の機会が減ったりしたことによって、外部の人との関わりもですが、大学内での先輩や後輩との繋がりも少なくなりました。その反動もあってか、私は自分から動いて人と関係をつくらうと意識していました。コロナ禍を経験したからこそ、人との対話を大切にでき、その対話の中で作品の案が浮かんだりすることもあったので、結果として自分の制作にはいい方向に影響したかもしれません。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

楽器にチャレンジしたいです。特にドラムを演奏してみたいなと思っています。頭だけで考えてしまうことが多いので、自分の全身を使って表現することをしてみたいです。

### Director's Voice





2023年/カラー/9分  
監督：脚本・制作・編集：増山透  
出演：岡野紗咲

PFF Award 2023

🕒 9.9📍11:30~/9.15📍14:30~ 小ホール

## 『ParkingArea』

### Recommend

#### 無機質な物体の動きが とにかく気持ちいいアニメーション

1 人、車で夜のパーキングエリアにたどり着くと、不思議な世界にトリップ。劇中に出てくる奇妙な形の巨大建造物たちのうちの幾つかは実在のものだと分かった。監督のカラーセンスが素晴らしい。無機質な物体の規則的な動きを見ると、ぞわぞわ！脳みそのひだに直接触れるような気持ち良さ！ASMR、Satisfying video、liminal spaceが好きな方に激烈に勧めたい。ほとんど顔の見えない主人公には目的地があるのかも分からない。でも宇宙へ飛び出すマツダファミリアXGに私も乗せていってほしくなった。

権沢優希 字幕翻訳者/映画館スタッフ

監督：**増山透**

ますやま・とおる/1993年生まれ、茨城県出身。武蔵野美術大学彫刻学科に入学した後、映画学科に転科。映画サークルで自主制作を始める。2020年から同学科で助教を務め、この春に退職。現在、フリーでCG制作や映像編集を手掛けている。



Profile

Director's Voice

- Q1** なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。
- 20代前半の頃、年末に実家に帰省するため、夜に父親と二人で高速道路を走っていたのですが、その時に見た風景が、どこか空を飛んでいるような、宇宙を飛んでいるような不思議な風景で、なんとなく記憶に残ってしまっていたので、それを映像にしたいと考えて作り始めました。
- Q2** 「ここを観て!」というポイントは?
- 冒頭のカットが結構気に入っているんで、ぜひ観ていただきたいです。
- Q3** 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。
- 最近気付いたのですが、もしかしたら『イノセンス』かもしれません。
- Q4** コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたが。
- コロナ前は周りが明るかったので、暗くてシリアスな映画をつくりたいと考えていたのですが、現実の世界の方が暗くてシリアスになってしまい、わざわざつくる必要性がないと感じるようになりました。今は逆に「誰かの心を癒せるような映画をつくりたい」「観ている間が、いい時間だったと感じてほしい」と強く思っていますし、ものづくりは自分のためではなくて、常に誰かのためにあるのだと考えるようになりました。
- Q5** 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?
- バンド・デジネやグラフィックノベル等、漫画をつくってみたいですね。



2023年/カラー/30分  
 監督・脚本：張曜元  
 プロデューサー：徐梅、筒井龍平  
 撮影・グレーディング：由進  
 サウンドデザイン：鈴木昭彦  
 出演：阿部力、姜楠、張晟、村松和輝、  
 秋美敬春

PFF Award 2023

## 『ハーフタイム』

🕒 9.10@18:00~/9.15@11:30~小ホール

### Recommend

#### 突き放したリアリズムが描く静かな怒り

技能実習生として日本にやってきた慶陽<sup>チンヤン</sup>。だが、悪徳業者にだまされ、同胞に裏切られ、中国に残してきた妻からも見限られてしまう。働いても働いても、手に残る金はほとんどない。感情を押し殺し、絶望から抜け出そうともがく主人公の心象風景を映すようなグレーなトーンが全編を覆う。張曜元監督は、主人公の苦難の運命に、故郷の中国東北地方から仕事を求めて日本へ渡った多くの人々の姿を重ねる。急激な社会の変化に取り残され、尊厳を傷つけられた者たちの姿を、カメラは徹底したドライなリアリズムで捉えていく。

久保田ゆり PFFスタッフ

#### 監督：張曜元

ちょう・ようげん/1989年生まれ、中国大連出身。2014年に来日し、大阪芸術大学映画学科で大森一樹の指導を受ける。22年『登場』で第14回日本映像グランプリ最優秀ドキュメンタリー映画賞を受賞。東京藝術大学大学院映像研究科博士課程に在籍。



### Profile

- Q1** なぜこの作品をつくりたいと思ったのか教えてください。
- 技能実習生を描くことをプリズムにして、中国東北地方からの脱出者が海外で複雑な状況に置かれている事実を照射し、私自身の故郷でもある中国東北地方の疎外された現状を浮かび上がらせることを目的としています。
- Q2** 「ここを観て！」というポイントは？
- 技能実習生制度が設立した当初の日中政府合作行為から、「夫婦詐欺行為」に移り変わることを批判するより、急激な社会変化から生み出されたそれぞれの根無し草の尊厳を記録することが、本作の最大の見せ場、意義だと考えます。
- Q3** 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。
- 『雨月物語』です。
- Q4** コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。
- 2020年以降、私はドラマの初長編へと進み、制作の経験を積んで成長を遂げるはずでしたが、コロナの流行によって状況は一変しました。この3年間は、脚本を書くことしかできませんでした。ただ、前は時間がなくて観られなかった映画を観に行ったり、家族と一緒に過ごしたりしていましたので、あまり悪くはなかったと思います。
- Q5** 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？
- 水泳を学びたい。海の町の出身なので、泳げないと恥ずかしいです。

### Director's Voice

2023年/カラー/11分  
監督・構成・撮影・録音・編集：川口淳也  
制作応援：大川晃平  
出演：川口淳也、丹羽 歩(声)

PFF Award 2023

🕒 9.10🕒18:00~/9.15🕒11:30~ 小ホール

## 『不在の出来事』

### Recommend

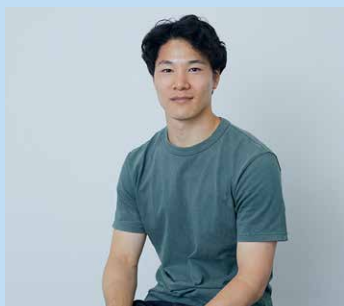
#### スコープからのぞく「家」という宇宙

「<sup>から</sup>空舞台」。映画の撮影用語で、役者がいない無人状態を指す言葉だ。冒頭こそ住人であろう男が登場するが、本作の主人公は男が出ていったのちの「部屋」。つまり、「空」。光が鏡に反射して、水滴は引力に従い、窓から風が吹き抜ける。人が不在であっても、部屋の呼吸は絶えず続く。全編に満ちているのは、「今この瞬間に、どこかで素晴らしいモノが生まれて消えている」という切ない喜びだ。それは、情報過多な現代で生きる私たちが見落としがちな想像ではないだろうか。監督が示した「空即是色」を体感してほしい。

植木咲楽 映画監督

監督：川口淳也

かわぐち・じゅんや/1993年生まれ、三重県出身。名古屋ビジュアルアーツを卒業後、アルバイトをしながら映画制作を続ける。誰もいない空間を撮りたいとの思いから、本作を着想。自宅を撮影場所とし、10日間ほどで撮り上げた。



Profile

- Q1** なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。
- 一人で撮れるようなミニマルな映画制作に挑戦してみたいと思ったからです。人以外の何かをメインとして撮影をしたかったとも言えます。人がいなくても動く空間。誰もいなくなった、人不在の空間へのロマン。
- Q2** 「ここを観て!」というポイントは?
- 人不在の空間の躍動と沈黙、動と静とその対比。映像と音楽の調和。
- Q3** 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。
- 特定の映画というよりは、20代半ばまでアルバイトや派遣を転々とするような生活をする中で、毎日映画を観続けているうちに次第に自分も映画を撮りたいという気持ちが大きくなり、監督を志すようになりました。
- Q4** コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。
- 特になし。
- Q5** 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?
- YouTuber。シンプルに面白そう。今だからこそこの職業。自分一人で稼げる、経済的に自立した個人になりたいという気持ちがあるためです。

Director's Voice



2023年/白黒/26分  
 監督・脚本・編集：和久井亮  
 撮影：高橋怜央  
 録音・整音：増喜公美  
 音楽：柴田優華  
 スチル撮影：石坂洋子  
 出演：丸田亮祐、Axol、高田享太、三宗  
 凧、杉田南実

PFF Award 2023

## 『Flip-Up Tonic』

🕒 9.9📍11:30~/9.15📍14:30~小ホール

### Recommend

#### アンドロイドをめぐる謀略、 または挑戦状としての映画

アンドロイドLEACHARとの交流実験に参加した学生タラノが、学外での同行中に肝心のロボット「ジョー」を見失ってしまう。第1章にて消えたロボットの行方を追うかと思いきや、次章では彼が研究室にて説明を受ける場面へ時系列をさかのぼる。いつしか映画は円環構造へ観客を誘導する。それにしても倍速視聴の映像さえ連想させる人々の早い喋りを観ながら「全員ロボットではないか」と疑いたくなるが、同時に罪悪感も覚える。声の震えやつまづきこそ人間らしさではないか…。まるで映画から「お前もまた壊れた機械のような人間だ」と挑発されているようだ。

中山洋孝 映画批評家

#### 監督：和久井 亮

わくい・りょう/2001年生まれ、東京都出身。東京大学教養学部に入學し、2年生から映画を本格的に観始める。学部で映画研究に触れる他、映画サークルに入って自主制作を始める。映画美学校でも学び、8月にフィクション・コース初等科を修了した。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

諸方面へのいたずら心が折り重なってできた作品ですが、主要な着想は「SF映画は存在しない」という文章と「WiLd LiFe」という映画から拝借しており、敬愛する両作品に当然のごとく粉砕された軌跡でもあります。英語にだけは訳せないつくりも狙いの一つでした。

#### Q2 「ここを観て！」というポイントは？

変に凝った画面の連鎖を多少でも楽しんでいただけたら嬉しいです。アピールしなければ意識に上らなさそうなポイントとして、アナグラムの数々が映画を支配していることが挙げられます。アナグラムは言わば外との交渉を排した自己完結的な遊びであり、この閉鎖的な傾向は良くも悪くも作品全体に反映されていると思います。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

3年ほど前からともに映画を観始め、作品や批評、分析に触れるうちに自分でもつくってみたいと思うようになりました。間接的には国立映画アーカイブで観た「たそがれの女心」の衝撃から長らく立ち直れずにいます。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

今年を「ポストコロナ」とするならば、映画を観るようになり、自分でも制作を始め、今回上映していただく作品を撮り終えた頃までがほぼ「コロナ禍」の期間に相当します。感染症の流行は日夜家にこもって映画をむさぼる格好の口実でしたが、その間に失われた命や生活を思うと自らの幸運に呆然とするばかりです。まだごくぼんやりとですが、2020年前半を舞台にフィルム・ノワール風の映画がつかれないかと構想しています。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？

映画をめぐるのは戦意も困難もないので挑戦している気はしませんが、今後は観たい映画を観ながら不足のない稼ぎを得ることが挑戦になりそうです。のん気に漂っていればよいと高を括っていますがどうなるのでしょうか。

### Director's Voice



2023年/カラー/56分  
 監督・脚本・編集：高田恭輔  
 撮影・グレーディング：市川雄一  
 録音・音響効果：土手柚希  
 美術：黒田晴斗  
 助監督：宮川彰太郎  
 出演：鈴木 唯、仁科かりん、河野安郎、  
 水谷悟子、松岡真吾

PFF Award 2023

## 『ふれる』

🕒 9.9🕒11:30~/9.15🕒14:30~ ホール

### Recommend

#### 小さな美咲が映画の中で生きている… 21歳、天性の演出力

母を亡くした美咲は父と姉の3人暮らし。学校にも行かなくなり、父の新しい恋人にもなじめず、近所の陶芸家のアトリエで過ごす時だけ心が安らぐ。

映画の中で、小さな美咲が生きている…そう感じさせたのは、ある程度の自由度を与えた美咲のお芝居を、登場人物全員で支えるという演出方法。それは、それぞれの役者の潜在的な魅力を放った。とりわけ姉役の仁科かりんさんの素晴らしい演技を引き出したのは、意図的にしろ偶然にしろ(天性の演出力)を感じさせる。監督は21歳というから驚きだ。「未恐ろしい才能が現れた…」とスクリーンの前でうなった。

竹中翔子 映画館支配人

#### 監督：高田恭輔

たかだ・きょうすけ/2001年生まれ、茨城県出身。高校生の頃から友人に出演してもらい映画を撮り始める。監督を目指し、日本大学芸術学部映画学科に入学。脚本に出来事だけを書き、セリフは現場で即興で生み出すスタイルで映画制作を続けている。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

大人になっていくにつれて不条理な出来事を経験していく中で、どうすればこの世界を肯定できるだろうという思いになりました。子どもの頃、何の先入観もなく世界にいたときの感じ方で、もう一度見つめ直してみたい、そこで何かを発見したいという思いから、子どもの映画を撮ることにしました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

主人公の美咲と姉の美和の関係性を観てほしいです。最初は美咲から見た世界を映すことに徹底しようと思って撮影していましたが、俳優と話す中で次第に美和の存在の大きさに気付き、シナリオの終盤を書き換えました。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

ピクトル・エリセ監督の「ミツバチのささやき」。高校生の時に初めて観て、よく分からないけど何かが映っていると感じた最初の映画でした。見たことがないのに知っていると思える時間を自分も撮りたいと思いました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

俳優と話し合いながら役や物語をつくっていく今のやり方は、コロナ下で始めました。それまで俳優への演出は台本のセリフをどう言ってもらおうか、どう動いてもらうかという話がほとんどだったのですが、このやり方をする中で、お互いの人生のことなど、技術ではない会話をするようになりました。今から思えば、自粛の中で社会や他者とうまく繋がれないもどかしさが、即興演出を考えるきっかけになっていたのかもしれませんが。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

学校の先生になってみたい。教員免許を持っているわけではないので非常勤講師ですが、なってみたいです。信頼できる大人が教師であることが多かったので、その人たちの見た景色に近付きたいと思っています。

### Director's Voice



2023年/カラー/42分  
 監督・脚本・編集:馬淵ありさ  
 撮影:哉司  
 録音:佐藤 開  
 音楽:Peno  
 キャスティング協力:小原正至  
 出演:芦原健介、辻 智輝、金子貴伸、須  
 田晶紀子、山ノ内涼太郎

PFF Award 2023

## 『ホモ・アミクス』

🕒 9.12🕒13:00~小ホール/9.17🕒18:00~

### Recommend

#### 驚きのアイデアで 命の価値という難題に切り込む力作

**加木** 空の生物ホモ・アミクスの実験施設という、説得力必須の物語は、その舞台も小道具もホモ・アミクスの描写もまるでコントのような作りでできている。にも関わらずリアルかつスリリングに進む物語に没入させられるから驚きだ。「ヤメロ」という鳴き声、脇を嗅ぎ合う交配の仕方等、監督のユニークかつ説得力あるアイデアはどこから来るのだろう。実験体に愛情を持ってしまった主人公の葛藤、切なさとともに、病に苦しむ夫婦の存在が、何度も揺さぶりをかけてくる。映画のテーマをちゃんと考えさせられるラストが心に残る。

**榎本高太郎** 映画製作管理/映画版權営業

#### 監督:馬淵ありさ

まぶち・ありさ/1995年生まれ、東京都出身。青山学院大学に在学中、映画部で部長を務める。一時期、肉が食べられなくなった自身の経験から本作を着想。1~2年かけて準備し、自費の約70万円で制作にこぎつけた。現在、フリーで映像制作を手掛ける。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくりたいと思ったのか教えてください。

何を犠牲にしても守りたい命というのが、人それぞれあると思います(自分自身や、家族や恋人やペットなど)。その犠牲となるものが、他の誰かが大切に思う命だとしても、自分の大切に思う命を守るためには選択しなくてはいけない、というテーマで映画を撮りたいと思いました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

新薬開発のために犠牲となる実験用生物ホモ・アミクス側、そして新薬開発を待つ、病気の妻とその夫側、両方の視点から物語を観ていただくと嬉しいです。また、愛嬌のあるホモ・アミクス802の可愛らしさにも注目してほしいです。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

高校時代に出来心で、スマホでショートムービーを撮って見たら、楽しくて完成品をずっと観ていました。大学で映画部に入り、機材を使って映画を撮ったらもっと楽しくて、こんなに楽しいことはずっと続けたいと思いました。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

人が集まりづらい状況になり、特に、仕事ではなく趣味にあたる自主制作はコロナ下で行うのは厳しかったです。仲間にもリスクを負わせるし、制作にあたって本気度が問われる期間であったと思います。また、家にいる時間が増えたので、前から興味があったモーショングラフィックスを勉強しました。今後作品にも取り入れていけたらと思います。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

沖縄で、貝殻が見つからなくて困っているヤドカリのために、殻を自作してたくさん提供してあげたいです。

### Director's Voice

8:07



2023年/カラー/36分  
 監督 脚本・編集：ハインズ麻里子  
 音楽：永岡史帆  
 撮影：神原 滉  
 撮影：安井 彬  
 撮影：伊藤慎之介  
 出演：森川千滉、三谷菜々美、泉水美和子、新開ひかり、渡邊透羽

PFF Award 2023

## 『また来週』

🕒 9.14 ⑧16:00~ 小ホール / 9.17 ⑩11:30~

## Recommend

## あの娘のように、羽ばたけ私の冒険奇譚！

朝ドラに夢中な高校生・明咲子は、野心みなぎるヒロインのバイタリティーを自分にインストールしては、新境地を切り拓いていく。自分の価値観を刷新すれば、見ている景色はガラッと変わる。まるで日常の生活にブーストがかかったかのように、明咲子は全能感に満ち加速する。岐路に立ち、選択を迫られるそんな彼女の青春時代は、無敵！ になったはずなのに…なぜだろう！ どこか寂しさも押し寄せる。明咲子の揺らぎとさまよいがスクリーンにこだまする。これは現実？ それとも虚構？ フィクションによって呼びさまされる活力は、無邪気で痛快で、愛おしい！

長井 龍 映画プロデューサー

## 監督：ハインズ麻里子

はいんず・まりこ/2001年生まれ、東京都出身。早稲田大学で映画サークルに入り、20年から映画制作を開始。翌年、藤井道人監督らが参加したオムニバス「DIVOC-12」の公募枠に選ばれる。最新作「タピオカ学入門」が第34回東京学生映画祭に入選。



Profile

Director's Voice

## Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

成長するにつれて周りから色んな理想像を提示され、自分の目指すべき姿が分からなくなることがあります。かつて抱いていた憧れがしぼんで、どっと流れ込んでくる現実。それとどう向き合えばいいのかわからないけれど、これからはずっと心に憧れを持っていたい、そんな願いを込めて10代の終わりに本作をつくり始めました。

## Q2 「ここを観て！」というポイントは？

朝ドラの世界と現実世界の対比です。NHK連続テレビ小説のような映像を撮るために、色んな部署のスタッフが工夫を凝らしてくださったのでぜひご注目ください。また、キャストの方々には、朝ドラと現実でそれぞれ対照的な役を二役演じていただいたので、芝居の違いを楽しんでくださると嬉しいです。

## Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

映画ではないですが、中学高校時代にオペレッタクラブという歌劇を制作する部活動に所属し、色んな役職を経験するうちに、脚本と演出が自分に合っていると感じたことが監督を志すきっかけになりました。

## Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

大学に入学早々ロックダウン、最初の1年が全てオンライン授業になり、閉塞感を抱きながらZOOMの画面に向かっていました。しかし、時間を持て余している中で応募した、コロナ下のクリエイター支援プロジェクトを通して監督デビューを果たすことになりました。あんなに憎かったパンデミックが、自分の映画人生のスタートラインだったと思うと不思議です。

## Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？

チーズがとても好きなので、ヨーロッパの山間の村でチーズづくりを体験してみたいです。



2023年/カラー/51分  
 監督・編集：高木万瑠  
 脚本：秋葉原タイチ  
 音楽：toulavi  
 撮影・カラー：宮川 玄  
 録音・整音：芹沢日向  
 出演：二宮啓輔、瀬戸璃子、樹屋大河、  
 加藤月乃、白田那千

PFF Award 2023

# 『USE BY YOUTH』

🕒 9.12🕒16:00～小ホール/9.16🕒11:30～

## Recommend

### 初期衝動がうなる、 青春バイオレンスファンタジー

**役**り合いで全てを決める世界でタイムン勝負に日々を費やす高校生たち。圧倒的な強さを持つが荒唐無稽な理由で拳を封印した主人公。リアリティー、等身大の描写を排除し、暴力とコメディ（と恋）に全振りした潔さ。ファンタジーの世界に生きる少年少女たちには、リズムカルな編集と音楽、役者たちのフレッシュさも相まって、しっかりと息を吹き込まれている魅力がある。

そして、懐かしいテイストと趣向を凝らした映像は、とにかくこれがやりたかったんだという監督の初期衝動に殴られているように！ その先も期待せずにいられないインパクト！

**榎本高太郎** 映画製作管理/映画版權営業

### 監督：高木万瑠

たかぎ・まる/2003年生まれ、東京都出身。高校から本格的に映像づくりを始める。現在、武蔵野美術大学映像学科に在籍。普段はMVなどを主に手掛け、視覚的な面白さを追求している。本作が映画初監督作品。好きな映像作家はダン・ストレイト。



## Profile

### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

大学の授業で短編映画をつくる機会があり、そこでは照明を担当したのですが、客観的に現場を見ていて自分も監督に挑戦してみたいと思い、制作することを決めました。映画の監督は初めてだったので自己満足な作品にはならないように話し合いを進めていきました。

### Q2 「ここを観て！」というポイントは？

拳を包帯でぐるぐる巻きにしている、本編ではほぼ喋らない男が主人公です。変わった世界観で若者たちの葛藤を描いています。広角レンズを使った躍動感のあるカメラワークやカット割りも観どころの一つです。

### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

『トレインスポッティング』『ブエノスアイレス』『ガーディアンズ・オブ・ザ・ギャラクシー』。音楽やファッション、美術など、カルチャーを感じる映画が大好きで、自分もつくってみたいと思いました。

### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

これまで映画はつくってこなかったので、影響した部分は分かりませんが、初めて会う人含めて周りがみんなマスクを着けていて、顔や表情が分からず、コミュニケーションを取るのに困ったことが多くありました。また、自分が罹患してしまい、現場には行かず、リモートでお仕事をしたこともありました。

### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？

ミュージックビデオ (MV) の制作を今後も続けていきたいと思っています。MVを観たり、音楽を聴いたりするのが好きだからです。音と動画の融合、シンクロの分野に興味があり、これからも研究していきたいです。

## Director's Voice





2023年/カラー/110分  
監督 脚本・撮影 編集：中野晃太  
撮影：柳田修平  
録音：飯塚了、土佐香理  
照明：金内直文  
出演：麗、武藤優汰、タカノ アレイナ、  
大原奈子、千葉龍青

PFF Award 2023

## 『リテイク』

🕒 9.9📍14:30~/9.13📍11:30~ ホール

### Recommend

#### 映画づくりの物語が、 私たちの時の流れを肯定する

夏 休みのある日、カメラを手に街に出た男子高校生の景は、河原で歌う同級生の遊に出会い、彼女に誘われるがまま他の友人らも巻き込み映画をつくり始める…。

一見、ありふれた青春映画の1コマから始まる本作は、しかし、私たちの予想を鮮やかに裏切り、映画的思考と生きることの哲学が交わる深淵へと観客を誘っていく。とすれば、理論先行の堅苦しい作品になりがちな映画というメディアに関する自己言及的な実験を、俳優たちのみずみずしい演技によって軽やかに描いた稀有な一作。

中根若恵 映画研究者

#### 監督：中野晃太

なかの こうた / 1987年生まれ、神奈川県出身。高校の放送部で映像制作を始め、東京造形大学で映画を学ぶ。現在、NPO法人湘南市民メディアネットワーク代表。青少年や市民向けの映像制作ワークショップなどを開催しながら、2年以上かけて本作を制作。



### Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくらうと思ったのか教えてください。

映像制作の講座を仕事としており、そこで本作出演の麗たちや多くの青少年の映画づくりの場と出会ってきました。純粋な表現へのパッションと、仲間と共に手探りし、楽しみながら真実に作品をつくり上げていくその姿勢に触発され、学生時代の自身の映画づくりを通じた青春の時間も振り返りながら、本作は結実していきました。

#### Q2 「ここを観て!」というポイントは?

現在人気沸騰中のバンド、チョーキューメイの麗をはじめ、共に本作をつくり上げてくれたキャスト陣にぜひご注目ください! また、主題歌、チョーキューメイの「また、夏になる」は、麗が役柄と同じ高校時代につくった曲なのですが、書き下ろしたわけではないのに絶妙に映画とリンクしており、全編通してキーとなっています。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

清水宏「蜂の巣」3部作。最初のきっかけというわけではないのですが、今の自分が憧れる監督としての在り方は蜂の巣プロで子どもたちと一緒に生きながら映画づくりをした清水宏かもしれないです。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

一時期は仕事が減ってしまったので、じっくり脚本づくりに集中することはできました。多くなった一人の時間で自身のこれまでを振り返りつつ、なげなしではありますが、その全てを作品に注ぎ込むことはできたように思います。逆に今後、ポストコロナでは、自分にとって未知の世界や人にも触れた作品もつくっていきたいと思いますが、一度自分のこれまでを本作でやり尽くしておくことができたのは、そのためにもよかった気がします。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは?

子どもから高齢者、障がいのある方や外国ルーツの方等が、映画・映像作品と一緒に制作したり、それぞれの作品を観て関わり合い、コミュニティを豊かにできるような場をつくりたいです。結局、映画ですな(笑)。

### Director's Voice



2023年/カラー/77分  
監督・脚本：石田忍道  
撮影：平良良樹  
助監督：斎藤千晃  
録音：伊藤昭宏  
車両：井上歩夢  
出演：田丸大輔、杉崎みなみ、小松遼太、  
奏羽 西、藤原絵里

PFF Award 2023

## 『リバーシブル/リバーシブル』

🕒 9.10@11:30~/9.13@18:00~小ホール

### Recommend

#### あなたには妖精が見えたか。 見ようとしたか。

**主演** 神科の訪問介護を利用する田中は、息子の開との生活のため、デリヘルドライバーの仕事 시작했다。ヘルパーの女性は開の姿が見えずに戸惑うが、デリヘル嬢のミサキは開と話す田中に興味を持つようになる。田中もまた「妖精が見える」と言うミサキに惹かれていく。

妖精を見るために訪れた夕方の土手のまぶしさは、彼らの世界の豊穡さを表しているようだ。映画はしかし、彼らの世界に無批判なままでは終わらず、当事者間の差別意識にまで踏み込む。観客もまた問われるだろう。自分には見えない世界を幻聴や幻覚という言葉で否定することの不毛さを。

和島香太郎 映画監督

#### 監督：石田忍道

いしだ・しのみち/1988年生まれ、愛知県出身。障がい福祉施設での仕事で、担当した高校生の希望でアクション映画を撮ったことを機に、映画づくりの面白さに目覚める。2019年に上京後、俳優の経験を積みながら人脈を広げる。本作が監督2作目。



Profile

#### Q1 なぜこの作品をつくろうと思ったのか教えてください。

「結婚して家庭を持ちたい」「自分らしく生きたい」「セックスを試してみたい」。障がい福祉の仕事に関わり、11年。当事者の皆さんから色んなことを教わりました。障がいや病気の有無に関わらず、自分らしく生きることは今とても難しくなっています。孤独を抱え、性愛を求める私たちに必要なことは何かを見つめ直したいと思いました。

#### Q2 「ここを観て！」というポイントは？

主人公の田中とミサキがデートするシーンがありますが、観どころではないでしょうか。また、ラストシーンもこの映画の余韻を感じていただけるのではと思っています。

#### Q3 監督を志すきっかけになった映画は何ですか。

2017年頃、障がいを持つ中高生たちと映画をつくりました。脚本を書くのも出演するのも自閉症や知的障がいを持つ子たちでした。映画制作に障がいや病気の有無は関係なく、やってみようという形にするのは楽しい！ そう実感したのが大きなきっかけです。

#### Q4 コロナ禍は、映画制作に影響を与えましたか。

仕事や学校が自粛になり、色んなことを考えるきっかけが増えました。仕事ばかりしていていいのかとか、自分には趣味が意外とないとか、僕たちは想像以上に暇なんだと思いました。だから、悩み、不安を抱えるのだと。だから、もっと今を楽しんで謳歌することが大事だと。しかも、一人ではなく色んな人と。それが本作にも反映されているのかなと思い返しました。

#### Q5 人生で、映画以外に挑戦してみたいことは？

月に行くこと、宇宙に行くことです。パツと思いついたのがそれでした。理由は衝動です。

Director's Voice